

キラリ輝く地域の輪

●自治振興会の活動内容を紹介しています●

土山学区自治振興会

「土山学区自治振興会」は東海道49番目の宿場町として、往時の面影を残す町並みが残されています。当会には16の区・自治会があり、世帯数1348世帯、人口3780人(2月末現在)で組織されています。

お茶の香りのようにほのかに甘くあたたかな人と人とのつながりが育む、誰にもやさしいまちをめざして取り組みを進めています。

特産品開発プロジェクトを開始

現在、会員の有志が地域の木材や野菜などを利用した新しい特産品の開発を企画しています。今後も学区内の資源を生かすとともに新たな地産を進めていきます。



平子の千枚漬け
赤かぶ漬け

名産の土山茶

伝統の味、蟹が坂餅

笑いの中で 「まぢんけん」を学ぶ

「まぢんけんは人づくり」と言われます。人権が守られた地域づくりをめざす。



落語家・露の新治さんによる「人権高座」

し、当会では毎年「人権高座」を開催しています。

落語家・露の新治さんから、心地よい笑いの中で「まぢんけん」を学びました。

高齢者問題への取り組み

― 認知症サポーター養成講座 ―

土山は、市内で最も高齢化率が高い地域です。高齢者問題への取り組みの一つとして認知症サポーター養成講座を実施し、認知症の実態、早期発見、早期治療や当事者への対応について学びました。



認知症サポーター養成講座

ふれ愛甲賀ふうせんバレーボール大会を開催

甲賀市身体障害者更正会が主催する「ふれ愛甲賀ふうせんバレーボール大会」に今年度も協賛して開催しました。ボールの代わりに直径40センチのゴム風船を使うこの大会は、障害の有無に関係なく誰もが楽しめることが特長です。

市内外より30チーム約250人が参加し、白熱したゲームが展開されました。



誰もが参加できる「ふれ愛甲賀ふうせんバレーボール大会」

また、小学校との共催事業として「わくわく手話」コースを実施したほか、当会の重要課題である「鳥獣害対策」や「生活支援事業」などの事業を進めています。なお、当会ホームページには、さまざまな事業を紹介していますのでご覧ください。



<http://tsuchi Yamagaku.com/>

水難救助訓練が行われました

●甲南中部地域市民センター



甲南町池田地先の大日池で3月14日、滋賀県防災航空隊と甲賀広域行政組合消防本部による「水難救助連携訓練」が行われました。訓練は、池でゴムボートの転覆事故が発生したことを想定し、21名の隊員が出動して行われました。

当日は、時折風速10m程度の突風が吹き荒れる悪天候のなか、ボートによる水面検索や水難救助隊(潜水隊)による水深4mの水中検索、滋賀県防災ヘリコプター(琵琶)や出動各隊との連携など、迅速かつ的確な訓練が実施されました。

万が一の際、地域の皆さんの命を守るために日夜努力を重ねられています。

「ふれあいクッキング」開催

●小原地域市民センター



小原自治振興会では3月16日、昨年好評だった「ふれあいクッキング・男の料理教室」を開催しました。当日のメニューは、チキンオムライス、茶碗蒸し、ヒラマサのつくり、大根と魚のアラ炊きの4品でした。参加者の中には、今までほとんど包丁など持たなかった人、料理の味付けなどさっぱり分からない人もおられ、調理師さんの指導のもと、皆さん一緒になって悪戦苦闘されました。試食会では、誰もが「おいしいーおいしいー」と口を揃え、みんなで作った料理を、絶賛されていました。

地域市民センター 東西 南北

いきいき体操 “いち・に・さん・し”

●水口地域市民センター



いつまでも元気にいきいきと過ごせるように、老化とともに衰える筋力の維持と仲間づくりの場として、3月から「いきいき百歳体操」をみなくち(毎週水曜日)・綾野(毎週金曜日)の両自治振興会が協力して開催しています。ひとつひとつの動作は簡単ですが、実際にDVDに合わせて「いち・に・さん・し」と声を出しながら、ゆっくりと10回動作を繰り返すと、見た目以上に筋肉を使います。毎回30人を超える方が参加され、体操の後は、あちらこちらで話の花が咲き「新しいお友達もできて楽しく続けて行けそう。」と話されていました。

日頃からの備えが大事

●佐山地域市民センター

東日本大震災から早二年。阪神淡路大震災からも十八年が経ちました。市内でもいつ災害が起こるか分かりません。少しでも災害に備えようとして、佐山学区自治振興会では、備蓄品として飲料水やアルファ米、クラッカーなどの食糧を購入しました。



また、市が佐山小学校体育館横駐車場に「防災備蓄倉庫」を新たに設置し、備品や非常食などが備えられています。

今後市、自治振興会、区が連携して佐山地域の災害に対する備えを進めていきます。また、避難場所を確認しておくなど、住民一人ひとりの日頃からの心構えも大切です。